

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年9月25日
【中間会計期間】	第57期中(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)
【会社名】	株式会社 武蔵カントリー倶楽部
【英訳名】	Musashi Country Club Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 池 谷 正 成
【本店の所在の場所】	埼玉県入間市大字小谷田961番地
【電話番号】	(04)2962 - 4151
【事務連絡者氏名】	取締役総支配人 金 子 隆 保
【最寄りの連絡場所】	埼玉県入間市大字小谷田961番地
【電話番号】	(04)2962 - 4151
【事務連絡者氏名】	取締役総支配人 金 子 隆 保
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第55期中	第56期中	第57期中	第55期	第56期
会計期間	自 平成24年 1月1日 至 平成24年 6月30日	自 平成25年 1月1日 至 平成25年 6月30日	自 平成26年 1月1日 至 平成26年 6月30日	自 平成24年 1月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成25年 1月1日 至 平成25年 12月31日
売上高 (千円)	606,649	563,744	478,408	1,262,193	1,042,799
経常利益又は 経常損失() (千円)	17,142	21,644	230,731	30,617	11,619
中間(当期)純損失() (千円)	74,157	310,179	321,997	99,234	392,165
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	644,000	644,000	644,000	644,000	644,000
発行済株式総数 (株)	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
純資産額 (千円)	1,101,835	766,579	362,594	1,076,758	684,592
総資産額 (千円)	10,463,896	10,345,945	9,989,051	10,340,438	10,131,263
1株当たり純資産額 (円)	612,131	425,877	201,441	598,199	380,329
1株当たり中間(当期)純 損失金額() (円)	41,198	172,321	178,887	55,130	217,869
潜在株式調整後1株当 たり中間(当期)純利益 金額 (円)					
1株当たり 中間(年間)配当額 (円)					
自己資本比率 (%)	10.5	7.4	3.6	10.4	6.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	238,545	238,578	214,164	222,855	2,263
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	280,445	298,470	326,042	355,148	302,681
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	83,550	87,300	47,400	138,350	181,800
現金及び現金同等物 の中間期末(期末)残高 (千円)	398,754	390,570	399,294	363,161	240,016
従業員数 (人)	63	60	62	63	58
[外、平均臨時雇用者数]	(156)	(116)	(146)	(153)	(116)

(注) 1 当社は中間連結財務諸表を作成していないので、中間連結会計期間等にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておらず、また、関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益は記載していない。

2 売上高には、消費税等は含まれていない。

3 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載していない。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はない。

3 【関係会社の状況】

該当事項なし

4 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成26年6月30日現在

従業員数(人)	62(146)
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員(嘱託等8名を含む)であり、また、臨時雇用者数は、当中間会計期間の平均人員を()外数で記載している。

(2) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はない。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間会計期間における日本経済は、4月の消費税率引き上げにより、増税前の駆け込み需要の反動減が懸念された。しかし、落ち込みは大方の事前予想された範囲に収まり、今後景気は緩やかに上昇すると見込まれている。一方で、人手不足などが深刻化しており、景気回復に少なからず影響を与えている。当倶楽部でもキャディを中心に人手不足が表面化し始めており、今後のクラブ運営の大きな検討課題の一つとなっている。

当中間期の武蔵カントリー倶楽部では、前期から着工していた笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造工事が当初の予定通り完了し、平成26年4月1日に無事仮オープンを迎えることができた。同年9月12日には本オープンとなる予定である。

当中間期における営業日数は、笹井コースがクラブハウス建替え及びコース改造により3月31日まで休場中であったこと、4月1日からの笹井コース仮オープン期間中は、芝の状態を優先させるために営業日数や1日当りの来場者数を制限したこと、これらに加え、二度に渡る大雪の影響により9.5日間クローズとなったことから、前中間期より22.0日減少して102.0日となった。また、来場者数についても、前述と同様の理由により、メンバーが15,449名（前年同期比10.2%減）、ゲストが6,534名（前年同期比32.1%減）、合計で21,983名（前年同期比18.0%減）と減少した。コース別では、豊岡コースはメンバーが11,458名、ゲストが5,193名、合計で16,651名（前年同期比2.5%増）、笹井コースはメンバーが3,991名、ゲストが1,341名、合計で5,332名（前年同期比26.2%減）となった。

営業成績については、上記でも述べた影響により、業務収入は278,299千円（前年同期比19.5%減）、食堂売店売上も70,764千円（前年同期比19.6%減）といずれも減収となった。また、年会費については、129,344千円（前年同期比0.5%減）となり、売上高は合計で478,408千円（前年同期比15.1%減）となった。

売上原価については、業務費は笹井コースのクラブハウス建替えに伴う備品購入などにより、539,470千円（前年同期比12.9%増）、食堂売店費も同様の理由により、112,996千円（前年同期比22.6%増）となり、売上原価は合計で652,467千円（前年同期比14.5%増）となった。また、販売費及び一般管理費は、狭山市との相互帰属による付替道路工事を寄付金として計上したことなどにより、128,219千円（前年同期比31.7%増）となった。

以上の結果、営業損失は302,278千円（前年同期比192.0%増）となった。営業外収益は、新規入会者の減少により入会登録料が減収となったため、71,664千円（前年同期比43.1%減）となり、経常損失は230,731千円（前年同期は21,644千円の経常利益）となった。

特別損失として、笹井コースのファン移設などに伴うコース改造関連費24,105千円、笹井コース改造工事に伴う余剰土搬出などの解体撤去費39,128千円その他、笹井コース既存駐車場等の減損損失14,694千円などを計上し、税引前中間純損失は321,772千円（前年同期比3.9%増）となった。法人税等を差し引いた結果、中間純損失は321,997千円（前年同期比3.8%増）となった。

(2) キャッシュ・フロー

当中間会計期間末において、現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ159,278千円増加し、399,294千円（前事業年度末比66.4%増）となった。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において、営業活動の結果使用した資金は214,164千円（前年同期は238,578千円の獲得）であった。これは主に税引前中間純損失を321,772千円計上したことによるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において、投資活動の結果得られた資金は326,042千円(前年同期は298,470千円の使用)であった。これは主に有価証券の償還や定期預金の払戻によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において、財務活動の結果得られた資金は47,400千円(前年同期比45.7%減)であった。これは主に会員預り金の増加によるものである。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 営業収入実績

内訳		前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)		当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
業務収入	メンバー料収入	23,959	4.2	21,393	4.5
	ゲスト料収入	127,357	22.6	99,579	20.8
	厚生料収入	63,455	11.3	51,514	10.8
	貸ロッカー収入	1,955	0.3	1,455	0.3
	練習ボール収入	6,654	1.2	5,953	1.2
	キャディー料収入	112,646	20.0	91,500	19.1
	競技料収入	4,756	0.8	2,200	0.6
	レッスン料収入	3,306	0.6	2,892	0.5
	その他収入	1,641	0.3	1,808	0.4
	計	345,734	61.3	278,299	58.2
食堂売店 売上	食事売上	47,857	8.5	38,209	8.0
	飲物売上	13,231	2.3	11,154	2.3
	酒類売上	11,576	2.1	10,214	2.1
	菓子類売上	293	0.0	244	0.1
	土産品売上	3,948	0.7	2,787	0.6
	煙草売上	630	0.1	425	0.1
	ゴルフ用品売上	10,463	1.9	7,728	1.6
計	88,000	15.6	70,764	14.8	
年会費収入		130,010	23.1	129,344	27.0
合計		563,744	100.0	478,408	100.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 収容能力

当ゴルフ場の快適な利用者の限度は一日当たり、両コース合計概ね300人程度である。

(3) 来場者実績

月別来場者数

月別	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)					当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)				
	メンバー	ゲスト	計	営業日数	一日平均	メンバー	ゲスト	計	営業日数	一日平均
1	2,588	895	3,483	20.5	170	2,388	640	3,028	13.0	233
2	2,351	1,101	3,452	18.5	187	437	92	529	2.5	212
3	3,435	1,988	5,423	27.0	201	2,519	930	3,449	15.5	223
4	3,258	2,857	6,115	25.5	240	3,340	1,516	4,856	22.0	221
5	3,015	1,524	4,539	17.5	259	3,808	1,740	5,548	25.5	218
6	2,549	1,261	3,810	15.0	254	2,957	1,616	4,573	23.5	195
計	17,196	9,626	26,822	124.0	216	15,449	6,534	21,983	102.0	216
%	64.1	35.9	100.0			70.3	29.7	100.0		

コース別来場者数

月別	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)							当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)						
	豊岡コース			笹井コース			合計	豊岡コース			笹井コース			合計
	メンバー	ゲスト	計	メンバー	ゲスト	計		メンバー	ゲスト	計	メンバー	ゲスト	計	
1	1,142	416	1,558	1,446	479	1,925	3,483	2,388	640	3,028	0	0	0	3,028
2	1,048	594	1,642	1,303	507	1,810	3,452	437	92	529	0	0	0	529
3	1,489	1,026	2,515	1,946	962	2,908	5,423	2,519	930	3,449	0	0	0	3,449
4	1,408	1,588	2,996	1,850	1,269	3,119	6,115	2,187	1,290	3,477	1,153	226	1,379	4,856
5	2,423	1,307	3,730	592	217	809	4,539	2,218	1,083	3,301	1,590	657	2,247	5,548
6	2,549	1,261	3,810	0	0	0	3,810	1,709	1,158	2,867	1,248	458	1,706	4,573
計	10,059	6,192	16,251	7,137	3,434	10,571	26,822	11,458	5,193	16,651	3,991	1,341	5,332	21,983
%	61.9	38.1	100.0	67.5	32.5	100.0		68.8	31.2	100.0	74.8	25.2	100.0	

(注) 1 ゲストには、登録家族を含む。

2 笹井コースは、クラブハウス建替え及びコース改造工事のため、平成25年 5月 8日から平成26年 3月31日まで休場している。

3 【対処すべき課題】

当中間期に笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造工事が完了したが、その影響により前期から当中間期にかけて多額の損失を計上している。今後はより一層、経費削減に努め、収益改善を図っていく考えである。

4 【事業等のリスク】

笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造工事による支出、それに伴う笹井コースの休場及び営業制限の影響により、当中間期も多額の損失を計上している。しかし、9月の笹井コース本オープン以降は、来場者数の増加も期待できると考えられ、天候不順等の特殊な要因がない限り、収支は改善される見込みである。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項なし

6 【研究開発活動】

該当事項なし

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

資産の部では、まず流動資産は前期末と比べて1,088,769千円減少し、2,149,354千円となった。これは主に、譲渡性預金の満期償還により有価証券が821,668千円減少したことによるものである。入出金の主な内訳としては、新入会員からの会員預り金、有価証券の満期償還による入金、笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造工事、投資有価証券の取得による出金である。

固定資産は前期末と比べて946,556千円増加し、7,839,696千円となった。これは主に笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造工事により、建物やコース勘定などが増加したこと、また、3件の社債を購入したことにより、投資有価証券が300,000千円増加したことによるものである。

負債の部では、まず流動負債は前期末と比べて142,302千円増加し286,089千円となった。これは主に前受金が142,338千円増加したことによるものである。

固定負債は前期末と比べて37,482千円増加し、9,340,366千円となった。これは主に新入会員からの入金により、会員預り金が47,400千円増加したことによるものである。

純資産の部では、繰越利益剰余金 321,997千円計上した結果、株主資本は362,594千円となった。

(2) 経営成績の分析

当中間期の営業日数は、前中間期より22.0日少ない102.0日となり、来場者数は前中間期より4,839名少ない21,983名となった。売上高は、前中間期に比べて85,336千円減少し、478,408千円となった。

売上原価・販売費及び一般管理費は、前中間期末と比べて113,413千円増加し、780,686千円となった。主な要因としては、笹井コースのクラブハウス建替えに伴う営業備品の購入や、コース改造に伴う樹木の伐採などによるものである。

営業外収益は、入会登録料が減少したことなどから、前中間期末と比べて54,224千円減少し、71,664千円となった。

以上の結果、経常損失は230,731千円（前中間期末は21,644千円の経常利益）となった。

特別損失として、笹井コースのファン移設などに伴うコース改造関連費24,105千円、笹井コース改造工事に伴う余剰土搬出などの解体撤去費39,128千円、笹井コース既存駐車場等の減損損失14,694千円などを計上した結果、税引前中間純損失は前中間期末と比べて12,058千円増加し、321,772千円となった。

法人税等を差し引いた結果、中間純損失は前中間期末と比べて11,818千円増加し、321,997千円の赤字計上となった。

当中間期は、笹井コースのクラブハウス建替え及びコース改造の影響により、来場者数が減少したことや営業費用が増加したこと、また、新規入会者が前中間期に比べて減少したことなどから、前中間期に引き続き大幅な赤字計上となった。

(3) キャッシュ・フローの分析

「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載の通りである。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はない。

2 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備計画の完了

当中間会計期間において、前事業年度末に計画中であった重要な設備の新設等について完了したものは、次のとおりである。

新設

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)	完了年月
笹井コース (埼玉県狭山市)	クラブハウス棟	579,882	平成26年4月
	コース改造本工事	402,703	平成26年4月
	多目的棟	69,318	平成26年4月
	クラブハウス空調機器設備	37,056	平成26年4月

除却

事業所名 (所在地)	設備の内容	前期末帳簿価額 (千円)	完了年月
笹井コース (埼玉県狭山市)	ラフ・フェアウェイ	7,492	平成26年3月
	3グリーン周り管理道路アスファルト舗装工事	1,272	平成26年3月
	コース課事務所棟	1,119	平成26年5月

(2) 重要な設備の新設等

当中間会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設等の計画はない。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,300
計	2,300

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年9月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,800	1,800	該当事項なし	単元株制度は採用していない
計	1,800	1,800		

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨定款に定めている。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし

(5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年1月1日～ 平成26年6月30日		1,800		644,000		133,000

(6) 【大株主の状況】

平成26年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社講談社	東京都文京区音羽2-12-21	22	1.2
牧製本印刷株式会社	東京都板橋区志村3-31-12	7	0.4
日本通運株式会社	東京都港区東新橋1-9-3	6	0.3
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー	5	0.3
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル	4	0.2
RKB毎日放送株式会社	東京都中央区銀座3-15-10 菱進銀座イーストミラービル2F	4	0.2
廣成株式会社	東京都中央区八丁堀3-25-7	4	0.2
株式会社トーハン	東京都新宿区東五軒町6-24	4	0.2
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関3-7-3	4	0.2
日本郵船株式会社	東京都千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル	4	0.2
計		64	3.5

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,800	1,800	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,800		
総株主の議決権		1,800	

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

--	--	--	--

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【株価の推移】

非上場のため該当事項なし

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はない。

第5 【経理の状況】

1 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間(平成26年1月1日から平成26年6月30日まで)の中間財務諸表について、はやぶさ監査法人により中間監査を受けている。

なお、当社の監査人は次のとおり交代している。

第56期事業年度の財務諸表 公認会計士 梅澤 隆

公認会計士 住田 笛雄

第57期中間会計期間の中間財務諸表 はやぶさ監査法人

3 中間連結財務諸表について

当社には、子会社がないため、中間連結財務諸表を作成していない。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

該当事項なし

- (2) 【その他】
該当事項なし

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当中間会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	790,016	399,294
売掛金	26,680	33,806
有価証券	2,372,049	1,550,380
たな卸資産	25,641	30,010
その他	23,735	135,861
流動資産合計	3,238,123	2,149,354
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	842,394	1,926,482
構築物（純額）	342,317	573,540
土地	2,089,076	2,089,076
コース勘定	574,424	988,392
建設仮勘定	1,205,888	31,447
その他（純額）	131,670	220,709
有形固定資産合計	1 5,185,772	1 5,829,648
無形固定資産	4,032	3,585
投資その他の資産		
投資有価証券	1,699,987	1,999,988
その他	3,347	6,473
投資その他の資産合計	1,703,335	2,006,462
固定資産合計	6,893,140	7,839,696
資産合計	10,131,263	9,989,051
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,915	37,134
未払金	80,486	52,375
賞与引当金	4,000	5,100
その他	40,385	191,479
流動負債合計	143,787	286,089
固定負債		
退職給付引当金	146,162	138,130
役員退職慰労引当金	5,820	1,148
会員預り金	9,150,900	9,198,300
長期前受収益	-	2,787
固定負債合計	9,302,883	9,340,366
負債合計	9,446,670	9,626,456
純資産の部		
株主資本		
資本金	644,000	644,000
資本剰余金		
資本準備金	133,000	133,000
資本剰余金合計	133,000	133,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	300,000	300,000
繰越利益剰余金	392,407	714,405
利益剰余金合計	92,407	414,405

株主資本合計	684,592	362,594
純資産合計	684,592	362,594
負債純資産合計	10,131,263	9,989,051

【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
売上高	563,744	478,408
売上原価	569,902	652,467
売上総損失()	6,157	174,059
販売費及び一般管理費	97,370	128,219
営業損失()	103,528	302,278
営業外収益	1 125,889	1 71,664
営業外費用	716	118
経常利益又は経常損失()	21,644	230,731
特別損失	2 331,358	2 91,041
税引前中間純損失()	309,714	321,772
法人税、住民税及び事業税	465	225
法人税等合計	465	225
中間純損失()	310,179	321,997

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
				別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	644,000	133,000	133,000	300,000	241	299,758	1,076,758	1,076,758
当中間期変動額								
中間純損失()					310,179	310,179	310,179	310,179
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計					310,179	310,179	310,179	310,179
当中間期末残高	644,000	133,000	133,000	300,000	310,420	10,420	766,579	766,579

当中間会計期間(自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
				別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	644,000	133,000	133,000	300,000	392,407	92,407	684,592	684,592
当中間期変動額								
中間純損失()					321,997	321,997	321,997	321,997
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計					321,997	321,997	321,997	321,997
当中間期末残高	644,000	133,000	133,000	300,000	714,405	414,405	362,594	362,594

【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失 ()	309,714	321,772
減価償却費	62,067	87,262
長期前払費用の増減額 (は増加)	2,327	3,126
差入保証金の増減額 (は増加)	50	-
賞与引当金の増減額 (は減少)	800	1,100
退職給付引当金の増減額 (は減少)	1,441	8,032
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	692	4,672
受取利息及び受取配当金	12,614	11,375
有形固定資産除却損	219,846	13,112
固定資産臨時償却費	44,525	-
減損損失	356	14,694
売上債権の増減額 (は増加)	2,247	7,126
たな卸資産の増減額 (は増加)	6,626	4,368
未収消費税等の増減額 (は増加)	-	84,731
その他の流動資産の増減額 (は増加)	13,369	27,054
仕入債務の増減額 (は減少)	17,798	18,218
未払費用の増減額 (は減少)	14,227	19,577
未払消費税等の増減額 (は減少)	274	4,682
その他の流動負債の増減額 (は減少)	234,897	98,002
小計	230,454	224,974
利息及び配当金の受取額	12,803	11,035
法人税等の支払額	4,678	225
営業活動によるキャッシュ・フロー	238,578	214,164
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	5,143,355	3,402,757
有価証券の償還による収入	5,892,951	4,224,426
投資有価証券の取得による支出	-	300,000
有形固定資産の取得による支出	497,715	745,625
無形固定資産の取得による支出	350	-
定期預金の預入による支出	900,000	700,000
定期預金の払戻による収入	350,000	1,250,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	298,470	326,042
財務活動によるキャッシュ・フロー		
会員預り金の受入による収入	180,300	122,400
会員預り金の返還による支出	93,000	75,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	87,300	47,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	27,408	159,278
現金及び現金同等物の期首残高	363,161	240,016
現金及び現金同等物の中間期末残高	390,570	399,294

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価額等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産

商品・貯蔵品...最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額は収益性低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以後取得の建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は以下のとおりである。

建物 15年～50年

構築物 10年～45年

機械及び装置 8年～17年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、主な耐用年数は5年である。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額基準により計上している。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務(当中間会計期間末時点の自己都合要支給額を退職給付債務とする簡便法)に基づき計上している。なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理している。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上している。

4 収益の計上基準

年会費収入については、期間の経過に基づいて計上し、それ以外の主な収益については、役務の提供に基づいて計上している。

5 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっている。

6 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっている。

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、未収消費税等として流動資産の「その他」に含めて表示している。

(会計方針の変更)

該当事項なし

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、売掛金は流動資産の「未収入金」に含めて表示している。今後、売掛金の増加が見込まれることから、実態をより適切に表示するため、当中間期より独立掲記している。

その表示方法の変更を前事業年度に反映させ、流動資産の「未収入金」に含めて表示していた26,680千円は、「売掛金」に組み替え、残額の11,983千円は「その他」に含めている。

(会計上の見積りの変更)

該当事項なし

(追加情報)

該当事項なし

(中間貸借対照表関係)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当中間会計期間 (平成26年6月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	2,137,009千円	2,166,903千円

(中間損益計算書関係)

1 営業外収益のうち主要なもの

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
入会登録料	104,700千円	56,000千円
受取利息	12,614千円	11,375千円

2 特別損失のうち主要なもの

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
固定資産除却損	219,846千円	13,112千円
減損損失	356千円	14,694千円
固定資産解体撤去費	60,116千円	39,128千円
コース改造関連費	6,513千円	24,105千円
固定資産臨時償却費	44,525千円	千円

(注) 固定資産臨時償却費の内訳は、笹井コース既存クラブハウスの除却時期確定に伴う建物・構築物等である。

3 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
有形固定資産	61,632千円	86,815千円
無形固定資産	435千円	447千円
合計	62,067千円	87,262千円

4 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上した。

前中間会計期間(自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)

場所	用途	種類	その他
群馬県前橋市	遊休資産	土地	
群馬県桐生市	遊休資産	土地	

当社は、2箇所のゴルフコースを運営しており、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、ゴルフコースごとに、遊休資産については個々の物件ごとにそれぞれグルーピングしている。

その結果、遊休資産については、市場価格が帳簿価額より下落していることにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上している。その内訳は、群馬県前橋市320千円、群馬県桐生市36千円である。

なお、当該資産の回収可能価額は、正味売却額により測定しており、路線価格に合理的な調整を行った価額により評価している。上記の遊休資産については、平成25年11月28日に売却している。

当中間会計期間(自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)

場所	用途	種類	その他
笹井コース (埼玉県狭山市)	処分予定資産	構築物	
豊岡コース (埼玉県人間市)	処分予定資産	機械及び装置	

当社は、2箇所のゴルフコースを運営しており、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、ゴルフコースごとに、遊休資産及び処分予定資産については当該資産ごとにそれぞれグルーピングしている。

当中間会計年度において、一部の資産の処分が決定したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上している。その内訳は、構築物13,998千円、機械及び装置695千円である。なお、当該資産の回収可能価額は、使用価値もしくは正味売却額により測定しており、回収可能価額を零としている。

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	1,800			1,800

2 自己株式に関する事項

該当事項なし

3 新株予約権等に関する事項

該当事項なし

4 配当に関する事項

該当事項なし

当中間会計期間(自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	1,800			1,800

2 自己株式に関する事項

該当事項なし

3 新株予約権等に関する事項

該当事項なし

4 配当に関する事項

該当事項なし

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 6月30日)	当中間会計期間 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 6月30日)
現金及び預金勘定	940,570千円	399,294千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	550,000千円	千円
現金及び現金同等物	390,570千円	399,294千円

(リース取引関係)

該当事項なし

(金融商品関係)

前事業年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

金融商品の時価等に関する事項

平成25年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、重要性の乏しいもの並びに時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていない(注)2参照)。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	790,016	790,016	
(2) 売掛金	26,680	26,680	
(3) 有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券	1,699,987	1,744,175	44,188
資産計	2,528,667	2,572,855	44,188
(1) 買掛金	18,915	18,915	
(2) 未払金及び未払費用	98,042	98,042	
負債計	116,958	116,958	

(注) 1 金融商品の時価の算定方法に関する事項
資産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(2) 売掛金

売掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、取引金融機関から提示された価格によっている(保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は、「有価証券関係」注記を参照)。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払金及び未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額(千円)
譲渡性預金	2,372,049
合計	2,372,049

譲渡性預金については、市場価格がなく、且つ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めていない。

当中間会計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

金融商品の時価等に関する事項

平成26年6月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、重要性の乏しいものは、次表には含めていない。

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	399,294	399,294	
(2) 売掛金	36,609	36,609	
(3) 有価証券	1,550,380	1,550,380	
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債権	1,999,988	2,056,588	56,600
資産計	3,986,273	4,042,872	56,600
(1) 買掛金	37,134	37,134	
(2) 未払金	52,375	52,375	
負債計	89,509	89,509	

(注) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であるため、時価にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(2) 売掛金

売掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 有価証券

有価証券は国内譲渡性預金であり、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(4) 投資有価証券

これらの時価については、取引金融機関から提示された価格によっている(保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は、「有価証券関係」注記を参照)。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(表示方法の変更)

前事業年度において売掛金は流動資産の「未収入金」に含めて表示している。今後、売掛金の増加が見込まれることから、実態をより適切に表示するため、当中間会計期間より独立掲記している。

この表示方法の変更を前事業年度に反映させ、流動資産の「未収入金」に含めて表示していた26,680千円は「売掛金」に組み替え、残額の11,983千円は「その他」に含めている。

(有価証券関係)

前事業年度(平成25年12月31日)

満期保有目的の債券

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表日における時価 (千円)	差額 (千円)
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	1,699,987	1,744,175	44,188
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの			
合計	1,699,987	1,744,175	44,188

当中間会計期間(平成26年6月30日)

満期保有目的の債券

区分	中間貸借対照表日における 中間貸借対照表計上額 (千円)	中間貸借対照表日 における時価 (千円)	差額 (千円)
時価が中間貸借対照表 計上額を超えるもの	1,999,988	2,056,588	56,600
時価が中間貸借対照表 計上額を超えないもの			
合計	1,999,988	2,056,588	56,600

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を全く行っていないので、該当事項はない。

(ストック・オプション等関係)

該当事項なし

(賃貸等不動産関係)

該当事項なし

(持分法損益等)

該当事項なし

(資産除去債務関係)

該当事項なし

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ゴルフ場事業運営の単一セグメントであるため、記載を省略している。

【関連情報】

前中間会計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略している。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略している。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載すべき事項はない。

当中間会計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

1 サービスごとの情報

当社は、ゴルフ場事業として単一のサービスを提供している。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はない。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はない。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略している。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項なし

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項なし

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項なし

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前事業年度 (平成25年12月31日)	当中間会計期間 (平成26年6月30日)
(1) 1株当たり純資産額	380,329円	201,441円
(算定上の基礎)		
中間貸借対照表(貸借対照表)の純資産の部合計額(千円)	684,592	362,594
普通株式に係る純資産額(千円)	684,592	362,594
普通株式の発行済株式数(株)	1,800	1,800
普通株式の自己株式数(株)		
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	1,800	1,800

項目	前中間会計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当中間会計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
(2) 1株当たり中間純損失金額	172,321円	178,887円
(算定上の基礎)		
中間純損失(千円)	310,179	321,997
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る中間純損失(千円)	310,179	321,997
普通株式の期中平均株式数(株)	1,800	1,800

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、1株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし

(2) 【その他】

該当事項なし

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出している。

有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第56期(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) 平成26年3月24日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし

独立監査人の中間監査報告書

平成26年9月19日

株式会社武蔵カントリー倶楽部
取締役会 御中

はやぶさ監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 稲葉 喜子 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 徳永 雅樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社武蔵カントリー倶楽部の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第57期事業年度の中間会計期間(平成26年1月1日から平成26年6月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社武蔵カントリー倶楽部の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(平成26年1月1日から平成26年6月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成25年12月31日をもって終了した前事業年度の中間会計期間に係る中間財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して平成25年9月17日付けで有用な情報を表示している旨の意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して平成26年3月20日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。